

理工学

メディアセンター

ニュース

No.114

AUG.2008

"Information and Media Center for Science and Technology" Newsletter

8月の開館時間

無印：短縮開館 月 - 金 8:45-19:00 / 土 8:45-18:00

○：閉館

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

*来月以降の開館予定は次のウェブページでご覧いただけます。

<http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/service/calendar/>

*塾内各地区メディアセンターの8月の開館日程は次のウェブページでご覧いただけます。

<http://www.lib.keio.ac.jp/schedule/200808.pdf>

目次

お知らせ 2

一斉休暇中のサービス停止について

早稲田大学図書館 夏季休業スケジュール (8/1 ~ 9/20)

British Library からの文献取寄せ料金の改定

電子図書館サービス 2

日本語の電子ブック「朝倉書店」「東京電機大学出版局」

電子ジャーナル利用統計 2007 (2) 利用されていないタイトルの存在

雑誌の動き 4

コラム 4

新着図書紹介 『先端巨大科学で探る地球』

お知らせ

* 一斉休暇中のサービス停止について

矢上地区夏季一斉休暇のため、8月9日（土）～15日（金）の間、理工学メディアセンターは休館します。当センター Web サイトは「学位論文データベース」を除き、この期間もご利用いただけますが、各種申し込みに対する処理は8月18日（月）以降となります。ご了承ください。

* 早稲田大学図書館 夏季休業スケジュール（8/1～9/20）

早稲田大学図書館は8月1日（金）～9月20日（土）まで夏季休業体制となります。この期間に来館利用・文献取寄せを希望する方は、図書館（室）の開館時間にご注意下さい。

理工学図書館 9:30～20:00

※土・日・祝日および8月9日～8月24日は休館（アスベスト除去工事のため）

理工学図書館学生読書室 9:30～18:00（閲覧室利用は9:00～18:00）

※土・日・祝日および8月9日～8月17日は休館

他の図書館（室）の開館スケジュールも各々異なります。また、取寄せ資料の到着が一部の教員図書室については遅くなる場合がありますので、ご了承ください。

ご不明の点は当センターレファレンスカウンターにお尋ね下さい。

* British Library からの文献取寄せ料金の改定

イギリスの British Library (BL) からの文献取寄せ料金が、8月1日より下記のように改定されます。

複写取寄せ：（旧）2,045 円 → （新）2,205 円／件

現物貸出：（旧）3,440 円 → （新）3,765 円／件

※どちらも従来どおり、お申し込み1件につき手数料が200円加算されます。

詳細はレファレンスカウンターにてお尋ねください。

電子図書館サービス

* 日本語の電子ブック「朝倉書店」「東京電機大学出版局」刊

朝倉書店、東京電機大学出版局の理工学系入門書を含む、日本語の図書259点がWeb上でご利用いただけるようになりました。電子ブックプラットフォーム「NetLibrary」上で提供しています。これらは KOSMOS II OPAC でも検索可能で、学内のネットワークに接続されたパソコンからであれば、検索結果からリンクを辿って全文を閲覧することができます。是非ご活用ください。

* 電子ジャーナル利用統計 2007（2） 利用されていないタイトルの存在

前号では、現在、慶應義塾大学で契約している電子ジャーナルのうち、大いに活用されている上位 30 誌をご紹介しました。今回は、逆にほとんどあるいはまったく利用されていないものがあること、またそれが何故なのかをお伝えします。

図 1 の円グラフは、電子ジャーナル利用統計を提供する海外の大手出版社・学会が刊行する約 3,600 タイトル（契約金額約 2.6 億円／年）を対象とし、昨年 1 年間で、それぞれの論文のフルテキストが塾内で何回利用されたかを調べ、その回数頻度ごとにまとめて割合を示したものです。

1 年間まったく利用のなかったタイトルが 2 割（730 タイトル）を占め、それを含めて約半数が 10 回未満のアクセスに過ぎませんでした。

ほとんど利用されない電子ジャーナルまで、なぜこのようにたくさん契約しているのでしょうか。それは、現在の出版社の学術雑誌販売形態に大きく起因しています。出版社は、紙と電子の両媒体での雑誌刊行、バックナンバーへ遡っての電子化、コンテンツ量の増大等を理由に誌代の値上げを強要します。更に、購読をキャンセルするとペナルティーとして他誌の値上げ率を加算したり、自社の刊行誌をまとめて買わせるパッケージ販売を主流にすることにより、図書館側が本当に必要な雑誌を選び絞って購入することを困難にしています。この状況は国内すべての大学図書館が抱える問題であり、メディアセンターだけでなく、塾全体としての電子ジャーナルについての方針検討や対外的な働きかけについて、関係各所に協力をお願いしているところです。

一方、円グラフの左半分は、概ね活用された電子ジャーナルといえるでしょう。塾内で入手できない論文を他機関から複写物で取寄せるサービスは、年々その件数が減っていることから（図 2）、教員・学生の皆様がご自身で PC から電子ジャーナルのサイトにアクセスし、必要文献を入手できる環境になってきたことが判ります。

（パブリックサービス担当 関口素子）

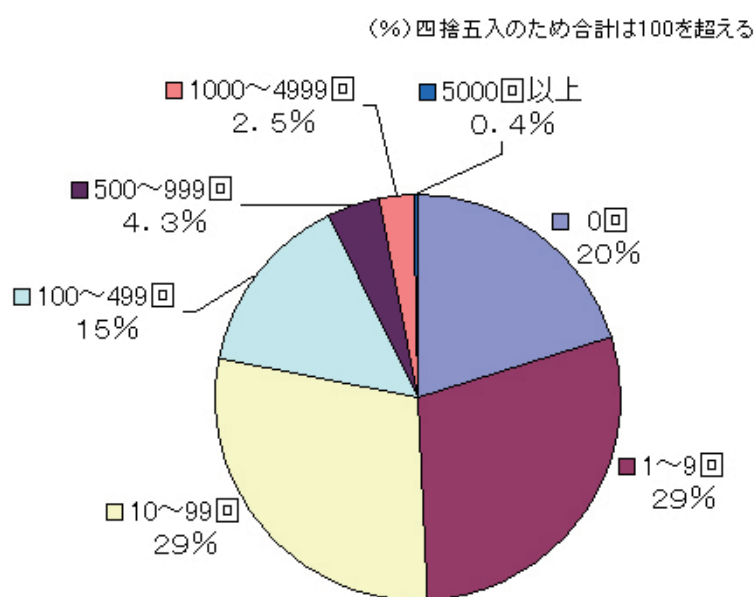


図1 電子ジャーナル 年間フルテキストアクセス回数 2007

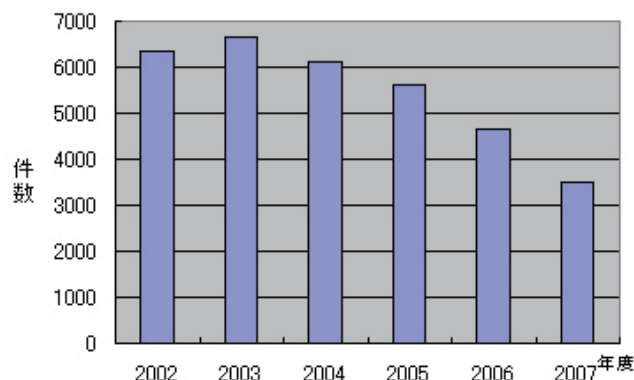


図2 複写取寄せ件数の推移(理工学メディアセンター)

雑誌の動き

【誌名変更】

- ・ Annual review of biophysics

(前誌: Annual review of biophysics and biomolecular structure) Vol. 37 (2008)-

【刊行媒体変更】

- ・ 画像電子学会年次大会予稿集 36 回 (2008.6)-
冊子 → DVD-ROM 刊行

【廃刊】

- ・ 数学のたのしみ = Have fun with mathematics / 日本評論社 -2008 最終号 (2008.6)
- ・ SAE technical papers on CD-ROM -2006 (2006)

コラム

* 新着図書紹介 『先端巨大科学で探る地球』

金田義行 [ほか] 著 東京大学出版会 2008 年

4
昨年秋、日本が誇る地球深部探査船「ちきゅう」が、南海トラフ地震発生帯の掘削を開始しました。これは海溝型巨大地震の発生メカニズムの解明に迫ろうとする計画で、これまで初期段階では平均的な地球の姿を得ることが優先されていた地球システム研究の中で、より広域かつ高分解能な観測が実現できるようになってきました。

地球の現在と未来を考えると、時間的・空間的に広帯域な地球の事象を観測し、高い分解能で現象を捉えて地球システムを理解するだけでなく、時空間の異なるスケールで発現する地球変動現象を統合的に理解し、将来の予測科学へ展開する、先端巨大科学が必要不可欠となります。

本書では、日本が主導で進めてきた先進的な巨大観測科学や、これから展開する高精度観測科学がどのようなものなのか、そしてそれらから何が得られるのかなど、最新の情報を紹介しながら詳しく解説しています。

【請求記号: 450@K5@1 配架場所: 本館 2F 一般図書】 (図書担当 田中美枝子)

◆発行: 慶應義塾大学理工学メディアセンター

E-mail: riko-info@lib.keio.ac.jp Home Page: <http://scitech.lib.keio.ac.jp>

電子版のご利用はこちら→ <http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/guide/publication/mcnews.html>